

1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

グループホーム ケアホーム宝塚

- 評価実施期間 平成 18年 2月 23日 から 18年 6月 5日
- 訪問調査日 平成 18年 3月 23日
- 評価機関名 特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
- 評価調査者 No.G04028(学識経験者・心理士・キャリアコンサルタント)
No.G04029(社会福祉士・福祉住環境コーディネーター
障害者就労支援指導者)
- グループホーム所在地 兵庫県宝塚市亀井町10-51
- 開設年月日 平成 17年 4月 1日
- 定員 (1)ユニット (9)名

○第三者評価結果

◇全体を通して

- 「医療法人尚和会」が事業主体となり、平成17年4月に開所。宝塚第一病院を母体としており、ホームには介護老人保健施設、居宅介護支援事業所も併設するなど、医療的バックアップ体制も整っていることから、入居者や職員に与える安心感は大きい。
- 阪急「逆瀬川」駅の南東約1.3km、同駅より阪急バス「御所前」バス停下車、徒歩5分程にある5階建ての建物。近くに武庫川が流れ、阪神競馬場も遠くない。1階に通所リハビリテーション施設を併設しながらも、グループホームには専用玄関を別に(建物裏手に)設けている。2～4階は介護老人保健施設「ケアヴィラ宝塚」。リハビリ庭園は広く、多数の木々や草花が植えられ、四季折々の花を楽しめる。日常の買物は近隣のスーパーで十分に足りるが、阪急逆瀬川駅前や宝塚駅前へも施設のシャトルバス利用により出掛けることができる。
- 運営理念は「**であい、ふれあい、えがおの輪**」。月に1回、法人本部主催の運営会議を実施し、基本方針、年度目標の確認などを行なっている。
- 毎月実施の研修会は、同じ内容のものも繰り返し行い、全職員が受講できる環境を整え、また、外部研修を各月複数回実施するなど、積極的に取り組んでいる。ベテラン職員と新人職員の組合せによる勤務体系を採るなど、OJT体制の工夫もなされている。
- 入居者を「ゲスト」と呼んでいることから、入居者の生活ペースを第一とした姿勢が感じられる。家族アンケートにも「明るく、家族にとっても気持ちが良い、対応が適切で早い」といった評価が多い。入居者管理・情報整理のための各種記録のデータ化も進んでいる。
- 音楽鑑賞・書道・花・工作・絵画など、趣味やクラブ活動の機会も豊富に提供され、入居者はこれらを日常的に楽しんでいる。散歩などを通じて、周辺の小学校や幼稚園のほか、近隣住民とも交流機会も多い。これらの方たちからホームを訪れることも多く、中学校のふれあい看護体験、看護専門学校生や看護管理者研修の受け入れ…等々も行われ、「地域社会へ開かれたホーム」として存在している。
- 現在も、ホーム外で介護講座の開講や、地域の方の看護・介護相談を受けるなどしているが、介護保険制度の改正によりこれが複雑化するなか、今後も、地域住民として気軽に頼ることができる施設として、更なるサービスの充実に期待したい。

◇分野・領域別

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有	○	
2	権利・義務の明示		○
3	運営理念等の啓発	○	

特記事項

- 理念は「**であい、ふれあい、えがおの輪**」。基本方針は「一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、パートナーとして支援する」。各職員に年間目標を設定し、中間・年度末評価を実施している。
- 重要事項説明書内に一時金(敷金)の説明が無く、介護保険給付サービスの自己負担額について理解しにくい部分があるので、表記の改善が求められる。
- パンフレットやホームページのほか、各種の連絡のための協議会も組織し、「ケアホーム通信」を発行することで、近隣住民に対して見学会や行事への招待などもしながら、これら啓発に力を入れている。

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり	○	
5	共用空間における居場所の確保	○	
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
7	身体機能の低下を補う配慮	○	
8	場所間違い等の防止策	○	
9	生活空間としての環境の配慮	○	

特記事項

- ◎要改善項目は、特になし。
- リビングの窓からは庭園が見渡せ、いつでも自由に散策ができる。花壇には多くの花が植えられ、後には野菜畑として収穫を楽しめるなど、広い庭園を生活空間として上手に使っている。庭の七福神の置物は、入居者に「人気」のようで、日々の生活の中にちょっとした和みを与えている。
- 併設の通所リハビリテーション室とは暖簾で隔てるだけにし、自由に行き来ができる。
- 脱衣室の衣類置き棚の一部に穴を開ける工夫によって、これを手すり代わりに利用する安全面の配慮もなされている。
- 全般的に、ホームでの生活が、入居者各自にとってこれまでの生活の延長線上に位置付けられるよう、居住環境の支援に取り組んでいる。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画	○	
11	介護計画の見直し	○	
12	個別の記録	○	
13	職員間での確実な情報共有		○
14	チームケアのための会議	○	
15	入居者一人ひとりの尊重	○	
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア	○	
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
18	一人で行えることへの配慮	○	
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫	○	
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた課題	○	
21	個別の栄養摂取状況の把握	○	
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援	○	
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮	○	
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮	○	
25	理美容院の利用支援	○	
26	プライドを大切にされた整容の支援	○	
27	安眠の支援	○	
28	金銭管理の支援	○	
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援	○	
30	医療関係者への相談	○	
31	定期健康診断の支援	○	
32	心身機能の維持	○	
33	トラブルへの対応	○	
34	口腔内の清潔保持	○	
35	服薬の支援	○	
36	緊急時の手当	○	
37	感染症対策	○	
38	ホーム内に閉じこもらない生活の支援	○	
39	家族の訪問支援	○	

特記事項

- 職員を入居者別の担当者制とし、それぞれが入居者の生活暦などについて家族等との情報交換を行いながら課題を設定し、築かれた信頼関係の中から入居者の自己実現につながるケアを行なっている。カンファレンスは随時行ない、課題をケアホーム会議で検討している。モニタリングも定期的に実施している。
- 申し送りは、連絡ノートを活用しながら、朝・昼・夕の3回行ない、情報の共有体制ができている。各種の記録はパソコンによってデータ管理されているが、時間表記の不明のものがあるので、その改善が求められる。
- 周囲に広がるリハビリ庭園への出入りは自由。
- 入浴は、希望すればいつでもでき、隣接施設のトロン温泉も楽しむこともできる。
- 趣味・クラブ活動・音楽鑑賞は、日課として取り入れられ、書道・花・工作・絵画等の楽しみ事も日常的に行なっている。毎月、季節行事や誕生日会があり、外食やドライブに出掛けることも多い。ホーム主催の各種行事を多く開催することで、家族がより多く訪問しやすいよう工夫してもいる。
- 併設の介護老人保健施設には医師が常駐し、かつ、看護師は24時間体制を採り、健康管理面においてホームとの連携がとれている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働	○	
41	入居者の状態に応じた職員の確保	○	
42	継続的な研修の受講	○	
43	ストレスの解消策の実施	○	
44	退居の支援	○	
45	ホーム内の衛生管理	○	
46	事故の報告書と活用	○	
47	苦情への的確で迅速な対応	○	
48	家族とのコミュニケーション	○	
49	地域の人達との交流の促進	○	
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ	○	
51	ホーム機能の地域への還元	○	

特記事項

- 月に1回開催される法人本部主催の運営会議をもって、施設の基本方針の確認などを行い、そこで設定された年度目標に向かって、各職員は努力している。
- 毎月の研修会は同内容のものを3回開催することで全職員がこれを受講し、外部研修は平均して月に3回以上組まれている。組織運営、サービス向上において、10を超える各種委員会を設置している。
- 勤務体系を、ベテラン職員と新人職員を組み合わせさせたシフトを組むことによる能力アップ・人材発掘の工夫がなされている。併設する介護老人保健施設との人事交流もスムーズになされている。
- 事業主体である法人のネットワークを活用して、入居者は、法人内の他機関(他のグループホーム・病院・介護老人保健施設)へ移ることもできる。
- 苦情処理委員会を設置し、それらの解決のための対策を検討している。家族アンケートをみても、家族へのホーム窓口の周知ができおり(皆がホームへの連絡方法を知っており)、また、家族からの相談に気軽にに応じてもらえる環境もできている。実際に、これまでも、多くの家族が「意見や要望、相談をしたことがある。」と回答している。
- 家族会は年2回開催されている。毎月発行の「ケアホーム通信」には、行事報告やイベント時の写真、日常の様子を載せ、入居者別に一筆を添える欄を設ける(温かな)工夫がなされている。また、入居者別のアルバムも作っている。
- 散歩などを通じて、近隣の学校・幼稚園、住民との交流があり、中学校のトライやるウィーク、ふれあい看護体験を受け入れ、地域によるホームへの理解を拓げる働きかけを行なっている。
- “介護出前講座”を開講し、また、地域の方の看護・介護相談に応じている。また、ボランティアや市の介護相談人への感染防止対策の指導、看護専門学校生や看護管理者研修の受け入れも積極的に行なうなど、グループホーム運営のみならず、地域福祉において、広く存在感のある施設になりつつある。現在も、公開の健康講座・介護講座、まちの保健室、介護職員研修の受け入れなどを企画中であり、今後も更なる地域還元の実践に期待したい。

2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
I 運営理念 1. 運営理念の明確化						
1	1	○			「であい、ふれあい、えがおの輪」を理念とし、「一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、パートナーとして支援する」を基本方針として掲げている。また各職員は年間目標を設定し、中間・年度末評価を実施している。	来年度からは目標管理シート方式に移行する予定。
2	3		○		「利用契約書」「重要事項説明書」に明記されており、入居者及び家族等に説明したうえで同意、署名を得ている。ただし、重要事項説明書内に一時金(敷金)の説明が無く、介護保険給付サービスの自己負担額の説明部分が解りにくい。	利用者の権利10項目は別紙になっており、玄関やリビングに掲示され、解りやすい。ただし、一時金の説明と金額の表記や自己負担額の説明等、入居者負担金額に関する部分の解りやすい表記が求められる。
2. 運営理念の啓発						
3	4	○			パンフレットやホームページを作成し、運営理念の啓発を行っている。また、連絡協議会を組織するとともに「ケアホーム通信」を発行し、見学会や行事への招待をしつつ、近隣住民への啓発に力を入れている。	
I 運営理念 3項目中		計	2	1		
II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり						
4	5	○			リビングの窓からは庭園が見渡せ、自由に散策できる。花壇には多くの花が植えられ、後には野菜畑として収穫を楽しめるなど、広い庭園を上手に使っている。リビングには鉢植えが置かれ、壁面には交流のある小学生からの作文やイベント時の写真が飾られている。また、将棋の駒や百人一首、あやとり等の遊び道具が籐製の整理棚にあり、いつでも利用できる。	併設する通所リハビリテーション室は暖簾で隔てられているだけで、自由に行き来ができる。また、トロン温泉も楽しむことができる。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
5	6	○			広いリビングやロビーには机や椅子があちらこちらに置かれている。また、庭園にもベンチやテーブルが置かれ、日光浴や会話を楽しむことができる。	広い庭園への出入りは自由で、花の手入れや、菜園の世話をするなど、自分の気に入った空間で、落ち着いた時を過ごすことができる。
6	7	○			使い慣れた家具や調度品を持ち込み、写真や置物を飾り自分自身の空間作りをしている。各居室の表札は紙粘土細工で入居者自身が作ったものを掛けている。	なかには、論文などを持ち込み、今までの生活の延長上にホームを位置付けている入居者もある。
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり						
7	9	○			必要な場所には、手すりや滑り止めマットが設置されている。また、併設する通所リハビリテーション室が開放されているため、自由に利用することができる。それぞれのペースで機能低下防止を図ることができる。	脱衣室の衣類置き棚の一部に穴を開けることによって、手すり代わりに利用する工夫をしている。
8	11	○			各居室の表札は紙粘土細工で入居者自身が作ったものを掛け、花や部屋番号なども表示され、見るだけで解りやすく、工夫されている。	
9	12	○			窓が大きく開放感があり、窓の向こうには庭園が広がり、明るいリビングである。照明は間接照明で、エアコンによる適度な空調がなされ、オープンキッチンからは料理やご飯の炊けるにおいや職員との会話があり、BGMを流すなど落ち着いた生活への配慮がある。	
II 生活空間づくり 6項目中		計	6	0		

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント						
10	15	○			職員を入居者ごとの担当者制とし、家族等と情報交換を行いながら課題設定している。また、カンファレンスは随時実施、ケアホーム会議で検討している。様式は併設の介護老人保健施設と同じ「包括的自立支援プログラム」を使用し、ほとんどの書類がデータ化されている。	
11	16	○			ケアマネージャー、ケアスタッフ、管理者、看護師等から構成されるサービス担当者会議を定期的で開催し、3ヶ月に1度の見直しを行っている。その他、変化に応じて随時見直しを行っている。また、モニタリング記録表が整備され家族の確認もされている。	
12	17	○			観察内容や状態の変化など、日々の具体的な記録が実践記録に残され、介護計画の見直しにも活用している。	
13	18		○		申し送りは、朝・昼・夕の3回あり、確実な情報共有体制がとられている。記録は、パソコンによって管理されているが、時間表記部分が不明(0:00)のものがある。また、連絡ノートも活用している。	時間表記部分について、入力方法を職員に周知徹底されることが求められる。連絡ノートの字色は目的別に分けると解りやすい。
14	19	○			ケアホーム会議が月に1度開催され、課題を議題として取り上げている。サービス担当者会議の要点がまとめられている。また、医療機関との連携が良い旨が入居者アンケートからも読み取れる。	

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
2. ホーム内でのくらしの支援 (1) 介護の基本の実行						
15	20	○			職員は入居者一人ひとりの性格や行動パターンを大まかに把握し、状況に応じてさりげなく声かけを行なっている。また、各職員は、会話の中から出てくる本人の現実を受け止めている。	入居者自治会がある。
16	23	○			入居者毎に担当者を決めることによって、継続的に関り、築かれた信頼関係の中から入居者の生活暦等を深く知ることによって、入居者の自己実現につながるようなケアを行なっている。	玄関には元生け花の先生であった入居者の作品が飾られていた。
17	25	○			職員は、入居者に寄り添い、目線の高さを同じにすることによって、伝えたいことが表出しやすいように心がけている。本人の自己決定を尊重した支援を行ない、必要なときには家族に確認をとっている。	介護老人保健施設と一緒にこなっている音楽療法において昔話がよく出てくる。
18	27	○			入居者の得意とすることや好きなことを係りとして決め、全員が何らかの役割を持っている。分担表に表示することで、入居者同士の声かけや職員がさりげなく支援できるシステムにしている。	家族の了解を得て、入居後1週間は夜の特性や行動パターンを把握するため、職員が常に見守りを行ない、アセスメントを実施している。
19	29	○			身体拘束防止マニュアルを作成し、職員に周知徹底している。また、周囲に広がるリハビリ庭園への出入りは自由で、併設する通所リハビリテーション室へも暖簾で隔てられているだけで、自由に行き来ができる。	

項目番号	項 目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	○			食事は主に業者から材料を調達、カロリー量は把握され、入居者は盛り付けを中心に職員と協働している。月に2,3回は入居者で好きな物を決め、ランチパーティーを行ない、買出しは施設のシャトルバスを利用して宝塚市内に出かけたり、歩いて近隣スーパーへ行ったりしている。	菜園で収穫した野菜で献立を誕生メニューは赤飯にするなど、行事食を取り入れている。
21	34	○			管理栄養士からアドバイスや指導を得て、摂取カロリーや栄養バランスについて配慮している。また、水分摂取量については、入居者それぞれの湯呑みに入る量を控えており、摂取量を細かく記録している。	
22	36	○			茶碗、湯呑み、箸などは入居時に馴染みの物を持参し、BGMなどを流し、ゆったりとした時間を確保している。職員も食卓を共に囲みながら、人の動きを最小限にし、さりげなく入居者をサポートしている。	
2) 排泄						
23	37	○			職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な時間にトイレ誘導を行なうことにより、自立支援をしている。前施設からの申し送りが「おむつ対応」であった入居者が、適切な時間のトイレ誘導を繰り返すことによって、リハビリパンツ対応になった。	
3) 入浴						
24	41	○			入浴回数や入浴時間は大まかに決めているが、希望すればいつでも入浴が可能である。隣接する通所リハビリテーション室にあるトロン温泉の入浴も楽しむことができる。また季節の湯として、菖蒲湯やゆず湯などを楽しむことができる。	脱衣室における転倒防止策として、衣類置き棚の一部に穴を開けることによって、手すり代わりに利用する工夫をしている。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4) 整容						
25	43	○			馴染みの理美容院がある場合は、家族が付き添いのもと、利用している。ホームには月2回の出張理美容があり、好みにカットしたり、パーマ・ヘアダイ等それぞれの個性を活かしている。	
26	44	○			入居者の好みを尊重した上で、温度計や湿度計を活用し、体感を通して会話の中からさりげなく支援している。また、外出や行事、イベント時にはTPOに適した服と一緒に選ぶ等の支援を行ない、整容チェック表に記録している。	
5) 睡眠・休息						
27	47	○			入居者それぞれの起床、入眠時間を把握しており、入眠しやすくなるよう午後7時頃に暖かい飲物を出したり、足浴を行ったりしている。	
(3) 生活支援						
28	51	○			入居者は、その人の能力に応じて自己管理することを基本としているが、難しい入居者には、実費がかかる場合、家族の了解を得た上で、ホームが立替払いを行ない、毎月報告(請求)している。また、入居者は近隣スーパーや宝塚市内に出た時に買物を楽しんでいる。	
(4) ホーム内生活拡充支援						
29	53	○			入居者の得意なことを日常的な役割(係り))として持っている。地域で行なう盆踊りや祭りに参加し、季節の催し事やそれらに伴う行事食提供の支援を行なっている。趣味・クラブ活動・音楽鑑賞は日課に取り入れられ、書道・花・工作・絵画等も日常的に行なっている。	演奏会やコーラスへ出かけたり、児童や園児との交流も盛んに行なわれている。

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(5) 医療機関の受診等の支援						
30	55	○			併設する介護老人保健施設に医師が常駐し、看護師は24時間体制で常駐しており、常に連携がとれている。歯科医師は週に1回または随時に往診がある。	提携医療機関は 総合…宝塚第一病院 歯科…田中歯科医院
31	61	○			入居者の主治医、提携の宝塚第一病院、市の健康診断を、家族と相談のもと、定期的に受けている。	
(6) 心身の機能回復に向けた支援						
32	63	○			職員は心理関係の勉強会を実施している。また、入居者それぞれの心理状況をおおまかに把握し、その人に適した声かけや役割を取り入れることで心身機能の維持向上に努めている。ソファには赤ちゃん人形があり、入居者があやしていた。	音楽療法を行なうことにより、五感への働きかけ、長期記憶の引き出しを行なっている。
(7) 入居者同士の交流支援						
33	65	○			職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因(体調不良、相性等)を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	
(8) 健康管理						
34	67	○			朝食前のうがい、毎食後と就寝前の歯磨きを欠かさず行ない、自力で困難な入居者には職員が介助を行なっている。	

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35	70 ○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			職員は、薬の効能・副作用や観察事項について学び、周知徹底しつつ、症状の変化にも留意し、必要事項はケアプランに反映させている。また、飲み忘れの無いよう、服薬確認を行ない記録している。また、薬は事務室の鍵のかかるロッカーに保管されている。	
36	72 ○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			緊急時マニュアルがあり、消防署や病院に協力依頼し、モデル人形を用いて、救急蘇生法の実技研修会やAEDの取り扱いについての講習会を全職員対象に行なっている。	全職員が把握しておく必要のある情報は、別用紙に記入され、活用している。
37	73 ○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症マニュアルが整備され、感染対策委員会活動を行なっている。インフルエンザの予防接種を実施し、日々の予防対策として起床時のうがいを徹底している。また、季節毎に発生しやすい感染症についてはケアホーム通信などを通して広報活動を行なっている。	
3. 入居者の地域での生活の支援						
38	77 ○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			毎月、季節行事や誕生日会があり、普段でも外食やドライブ(阪神競馬場、ゆずり葉台など)に行くことが多い。また、散歩時に近隣の幼稚園を訪問したり、地域での行事参加などに職員同行で積極的に出かけている。	
4. 入居者と家族との交流支援						
39	81 ○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ホーム主催の各種行事を多く取り入れることによって、家族が訪問しやすい仕掛け作りを行なっている。特に、ホームパーティー時には料理作りから参加し、入居者、職員と共にテーブルを囲んでいる。また、家族アンケートでも全員が行きやすい雰囲気があると回答している。	
Ⅲ ケアサービス 30項目中		計	29	1		

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
IV 運営体制 1. 事業の統合性						
40	83	○			医療法人の一構成施設として位置付けられ、法人本部主催の運営会議が月に1回開催され、組織運営がなされている。また、施設の基本方針や年度目標を設定し、各職員は目標達成に向け、努力している。併設する介護老人保健施設と合同もあるが、10を超える各種委員会がある。	
2. 職員の確保・育成						
41	87	○			勤務体系は、ベテラン職員と新人職員を組み合わせたシフトを組む工夫が見られ、入居者の生活ペースに合わせたローテーションをとっている。入居者アンケートには、職員は明るく、家族にとっても気持ちが良い、対応が適切で早い、など好評価である。	併設する介護老人保健施設との人事交流があり、適した人材発掘も行なっている。
42	89	○			採用時オリエンテーションを実施している。また、毎月の研修会では、同じ研修会を3回開催して全職員が受講できる体制をとっている。外部研修は平均して月に3回以上組まれており、その研修に適した職員が参加し、ケアホーム会議などの場で報告発表している。	
43	91	○			法人は、職員の意見を聴く体制作りが重要と受け止めており、管理者や副施設長がスーパーバイザーの役割を果たしている。また、外部の医療機関等への相談も可能な体制になっている。	
44	95	○			家族やケアマネージャーを交えて話し合いの場を持ち、本人ニーズおよび家族ニーズを反映しながら退去先の選定を行っている。また、ケアホーム伊丹(同法人)への異動も可能になっている。在宅になった方がデイサービスに通所している。	法人ネットワークを活用して、病院や介護老人保健施設といった法人内の他機関へ移ることもできる。

項目番号 第三者 自己	項目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4. 衛生・安全管理						
45	98	○			包丁・まな板は使用の都度、消毒をし、冷蔵庫や洗濯機などは定期的に大掃除・消毒をしている。ゴミは毎日定時に回収、手洗いは感染対策委員会が中心となり器具を利用しながら啓発活動を行なっている。洗濯石鹸は誤飲防止のためロッカーに保管され施錠されている。	
46	102	○			緊急対応マニュアルや緊急連絡網は整備されている。また、事故防止対策委員会が2ヶ月に1度開催されている。	ホーム内においての事故発生時における、迅速な処理、報告手順等も含め、事故未然防止活動への取り組みも法人全体として日々継続的に取り組んでいる。
6. 相談・苦情への対応						
47	106	○			重要事項説明書に苦情相談窓口が明記され、ホーム玄関には意見箱もある。苦情処理委員会を設置し、対策を検討している。家族アンケートでは、全員がホームの窓口を理解し、気軽に相談等ができ、ほとんどの家族が意見や要望、相談したことがあると回答されている。	
7. ホームと家族との交流						
48	107	○			ケアホーム通信が毎月発行され、行事報告やイベント時の写真、お知らせなどで構成され、日常の様子を報告している。さらに入居者別に一筆を添える欄を設ける工夫がされている。また、入居者別にアルバムを作成している。家族会は年2回開催されている。	
8. ホームと地域との交流						
49	112	○			自治会や近隣住民の見学を積極的に受け入れたり、散歩の途中で幼稚園などに立ち寄るなど、地域との交流促進に積極的に取り組んでいる。夏祭りなどでは郷土踊りを披露してもらっている。	

項目番号		項目	できて いる	要改 善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者	自己						
50	114	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			小学校や幼稚園、近隣住民とは散歩などを通して交流があり、その方達がホームを訪れることも多い。地元中学校のトライやるウィークやふれあい看護体験を受け入れながら理解を拡げる働きかけを行なっている。	
51	115	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、認知症ケアに関わる知識・技術等を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	○			介護出前講座を開講し、地域の方の看護・介護相談を受けたり、ボランティアや市の介護相談人に感染防止対策を指導、看護専門学校生や看護管理者研修を受け入れ等を積極的に行い、地域において存在感のある施設になりつつある。	現在、健康公開講座、介護講座、まちの保健室を企画中であり、今後は介護職員研修も受け入れる予定がある。これからも更なる地域開放の実践に期待したい。
IV 運営体制 12項目中 計			12	0			

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。